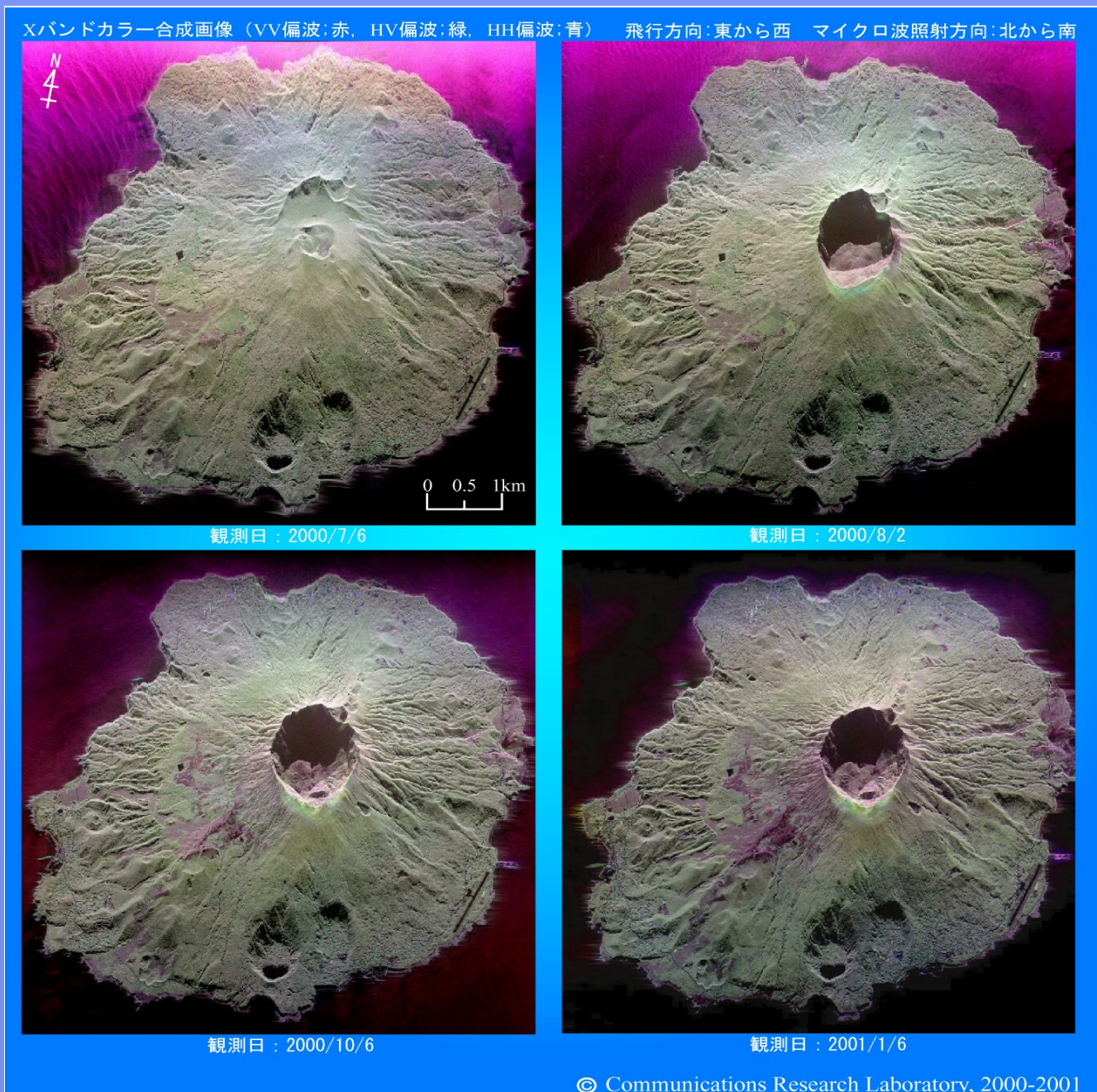


## マイクロ波映像で見る三宅島の姿（1）

データ収集：通信総合研究所

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

JACIC 情報 66 号からシリーズとして取り上げている航空機搭載マイクロ波映像レーダ (Polarimetric and Interferometric Airborne Synthetic Aperture Radar System : Pi-SAR) データ (観測波長帯 X バンド、地上分解能 : 1.5m、観測波長 : 約 3cm) を用いて三宅島の噴火前後の様子を見てみました。2000 年 6 月から噴火活動が始まるとともに、7 月 8 日に火口が陥没し噴火しました。上段左側と右側がそれぞれ噴火前と噴火後の映像です。下段は 2000 年 10 月と 2001 年 1 月の映像です。噴火後の火口陥没や地表面変化の様子など、映像から多くのことが判読できます。噴煙や雲等に影響を受けることなく昼夜全天候観測が可能な Pi-SAR の特色です。災害発生時の状況把握は言うまでもなく、二次災害対策や復旧対策支援のための時系列情報を広域に取得する上で、Pi-SAR データの今後の活用に期待されています。



© Communications Research Laboratory, 2000-2001